

三年学年だより

No. 9

2月号

令和3年 1月 29日発行

308HR 担任・副担任

健康第一

いつものように、私が言ってもあまり説得力がないのですが、とにかく健康が一番です。いつもと何か違うとか、調子がおかしいなと思ったときは、まずは、休養を取ることです。命が大切です。知らず知らずのうちに、体が悲鳴を上げているかもしれません。無理は禁物です。

自分が高校生だった頃——そのような時代があったのか、もはや思い出せませんが——自らの体をいたわりながら何かをするなどという発想さえなかったと思います。本当に能天気な生活を送っていました。ところが、いつしか目が見えにくくなって、日常生活のシーンに応じて遠近と中近の眼鏡をかけ替えて生活を送るという煩わしさが加わり、授業中に声が出なくなったり、びっくりするような咳で皆さんに迷惑をかけたり、だんだん変調を感じるようになってきています。何かを思いっきりやれる時期というのは、思いのほか短いものなのかもしれません。

3年前に皆さんに初めてお会いした時、3年後がまさかこのようなことになっていようとは、思いもしませんでした。いろいろな変化や制約の中で、何ができるか、どう行動するかが問われています。卒業を目前にしていますが、大学入試や新生活の準備に忙しいことと思います。一段落したら、教養を身に付けるべく、読書量を増やして行ってほしいと思います。若いころの読書は質より量です。そうすることで、自らの行動や思考に影響を与えてくれるような一冊に出会える機会が増えます。知識や知性、そして幸福とは何かを考えられる人になってください。

さて、割り当ての紙面もあと少しになってきました。2月というのは卒業に向けて、学校との接点が次第に薄れてくる時期である一方で、新たな世界との接点が徐々に増えてくる時期でもあります。決して無茶なことはせず、日々の生活に気を付けて過ごし、晴れやかな気持ちで3月1日を迎えられるようにしましょう。では、最後になりましたが、皆さんの健康と幸せを心より願っています。

(308担任)



母校の校歌

皆さんが入学した3年前、このような日常が訪れるなどと誰が予想をしたでしょう。この1年、残念だったことの一つは、みんなと一緒に校歌を歌えなかったことです。職業柄、転勤のたびに赴任先の校歌を歌うのですが、いずれの学校の校歌も素晴らしく、校歌に歌われる想いに心を打たれます。しかし、なぜでしょう、空で歌えたはずの校歌も、次の学校へ転勤をすると、思い出せなくなっていくのです。けれども、1つだけ忘れない校歌があります。母校の校歌です。どんなに久しぶりであっても、歌詞もメロディーも忘れることはありませんでした。それはたぶん、高校生活を通して校歌に歌われる想いが、私の人生の道しるべになったからだと思います。同窓会の最後は、いつもみんなで校歌を輪になって歌うのが恒例でした。きっと多くの同窓生が高校時代に思いを馳せながら、その後の人生を振り返り、次に会う日まで、未来へ向けて今をしっかりと生きていかなければと気持ちを新たにしたいのではないのでしょうか。

松山中央高校の校歌の3番は旅立ちです。歌詞のように、皆さんが広い世界ではばたくことを願ってやみません。しかし時には、疲れたり、くじけそうになったりすることもあるでしょう。今、という人もいるかもしれません。そんな時は校歌を口ずさんでみてほしいのです。きっと、勉強に、部活動に、セントラルマラソンにと頑張った自分や、一緒に過ごした友が励ましてくれると思います。大丈夫。できるよ、って。

ひとりじゃないよ、って。

(308副担任)